

本邦産長角蜻蛉科に就て(岡本)

に粗毛を装ふ。後脛節刺は第一跗節と殆んど同長。雄の尾端に附屬物を缺く。翅は細長にして前縁と後縁は殆んど平行す、翅脈は稍や粗なり。

分布區域 澳洲、ポリネシア、マレー群島、亞弗利加及び日本、

六、たいわんつのおんぼ (新稱) 第四圖 雄

Suphalasca formosana, n. sp.

觸角赤褐、端直なり、杓子部は稍廣く無花果形を呈し、尖端は黄褐なり。頭部淡黄、複眼の周圍青味を帶ぶる黄白、頭頂に暗褐色の長毛叢を有し、額の兩側にも各一個の毛叢あり(この毛叢は臘黄色の長毛より爲る)、胸部腹部は金屬性の暗黄色にして光澤なし、胸部に淡黄毛を粗生す、稜狀部の尖端に二黒點あり。脚は硫黄色、脛節に長き黒色の刺毛を粗布し、跗節に黒毛を密生し一見跗節は黒色なるが如し、脛節刺は赤褐、後脛節刺は第一跗節と同長。翅は少しく淡黄色を帶び、基部と前縁室は黄金色、副前縁脈の後半、脛脈の基部、中脈、副中脈、副内縁及び内縁脈は黄褐、他脈は黒色なり、脈に短黒毛

を密生す、前翅の前縁紋室は二十七、後翅にては二十四の前縁横脈を有し、後縁紋室に多角形よりなる二小室列ありて前列のものは後列のものより小なり、縁紋は赤褐にして六個の斜横脈を含む、翅は少しく紅緑色の彩光を放射す。

觸角の長さ 一六_{ミメ}

前翅の長さ 二七_{ミメ}

體長 二五_{ミメ}

產地 臺灣(六月)

北海道農事試験場昆蟲實驗室に於て

別記 余は數年以來脈翅目(Neuroptera)の研究をなしつつあれば大方の讀者諸君余に同目の標本を分與せられ余をして豫定の行動を採らしめられん事を伏して希望す。

○多室性簇蟲に就て 三三

理學士 秋山重美

分類

(明治四十二年十一月二十六日受領)

(一)

“Nature does not set arbitrary boundaries marked off by hard and fast lines. In the evolution of any two distinct forms numerous transitional ones occur, and classification is only intended to make the state of our knowledge for the time being.” ヌンペンサムは然か云へり。吾等若し生物の分類を企てんとせば、常に此の意を體じ、可及的公平無私に事に従はざるべからず。強ちに明確なる類別を望みて往々にして意外なる誤謬に陥ることあるは屢々聞知する處なり。

近來原蟲學界に於ける新事實の發見は非常なる勢を以て進みつゝあり。従つて其の分類には殆んど不斷の變動革明あり。Chlamydozoa の如き、Spirochete の如き、Trypanosoma の如き、Opalina の如き、數へ來れば枚舉に遑あらず。

胞子蟲學は殊に其の醫學と關係を有する點に於て大なる發達をなせり。又近來 Haplosporidia Myxosporidia 等に關する研究漸く盛ならんとす。

多室性簇蟲に就て(秋山)

簇蟲類に於ては分裂簇蟲類は比較的新發見の一群故其の研究も盛なれど、眞正簇蟲類殊に其の分類に關しては新研究極めて寥々たり。

單室性簇蟲と多室性簇蟲との別は或る者にては明なれど、多室性の者についても Doliocystis (Iamocystis, Rhopallonia, Schneideria, Sphaerocystis の如き) 上室のみを有して隔膜を有せざる二室性のものに於ては、單室性簇蟲との區別さほど明瞭ならず。又 Lankasteria の如き單室性簇蟲及び Selenidium の如き分裂簇蟲に於ても、體の前端上室様の形狀を呈することあり。故に單室性と多室性とは固より絶對の區別にあらず。或る者に於ては漸次に相推移して明に分つ可からず。

此章に於て陳ぶる分類は主として多室性簇蟲に關するものなれど時に序を以て他の胞子蟲類に及ぶこともあり。猶専門的に分類のみを調査するにあらざれば固より詳細なる記述と批評とをなす能はず。茲には只其の大概を紹介せんとするのみ。

多室性簇蟲の已知の種類は比較的に小なり。本文中に

多室性簇蟲に就て(秋山)

紹介したるものを越ゆることゝして過大にあらざるべし。只 *Gregarina* なる屬下に集り來るもの割合に多きのみ。猶、種、屬、其の他に疑はしきものは疑問符を付し置きたり。

(一)

分類に關する文獻の重なるもの

第一——始めて簇蟲の系統的分類を企てたるはシュタイン (Stein 1848) なり。彼は簇蟲を

1. *Monocystica*
2. *Gregarinaria*
3. *Didymophyida*

の三に分ち、更に之を下の七屬に細分せり。

單室性 { *Monocystis*
Zygocystis

Gregarina

多室性 { *Sporadina* (之れ 1811 年 Randohr の *Vibrio*
reduvii として記載したるものにして Bütschli 1882 は *Hyalospora* ならんとせしむ。

一一

Labbé 1899 は之を *Hirmocystis reduvii* とせり)

Stylorhynchus.

Actinocephalus

Didymophyes

以上の *Gregarinaria* 及び *Didymophyida* 等は後來の學者は之を合一して *Polycystidea* となす。

第二——ヤリケル (Kölliker 1849) は其の "*Gregarinen*" (今の *Hugregarines* に當る) を外形によつて下の如く分類せり。

A. *Einfache* (單室性)

„*isolirt lebende* (合接せざるもの) :

Gregarina Sipunculi Köll.

G. Terebellae Köll.

G. Neneris Köll.

G. Spionis Köll.

G. Lumbrici Henle.

G. Euehydraei Köll.

β) verbundene (合接せるもの) :

G. Saenuridis Köll.

B. Fingeshürte (多室性).

1) Mit einem einfachen abgerundeten Vorderende

(上室なきもの。即ち無頭蟲)

„ isolirt lebende:

Gregarina curvata Hammersch. (?)

G. oblongata Hammers. (今は Stylothynechus

oblongatus)

G. clavata Köll. (今は Gamocystis ephemerae?)

G. dytiscorum v. Frantz. (今は Gregarina dy-

tiscorum)

β . Zu zweien oder mehreren verbundene :

G. anarae v. Frantz. (?)

G. psocorum v. Sieb. (?)

G. ovata L. Duf. (今も同じ)

G. blattarum v. Sieb. (今も同じ)

G. oblonga L. Duf. (?)

多室性簇蟲に就て(秋田)

G. tenuis Hammers. (?)

G. elongata v. Frantz. (?)

G. polymorpha Hammers. (今も同じ)

G. mystacidarum v. Frantz. (”)

G. longissima v. Sieb. (今は Didymophyes lo-

ngissima なり。Siebold は同一の寄主即ち

Gammarus pulex の腸中に於て他の一小簇

蟲を發見せり。ケリケルの γ 型之れなり。

この簇蟲は其の衛星蟲 (Satellite) に隔膜を

有するものに於てケリケルは之れ Greg.

longissima とは別種のものならんとせり。

然し乍ら余はこは矢張り D. l. の幼型な

らんと信ず。何となれば余は Grapsus (三

崎にて「アラガニ」と稱するもの) の腸

内に寄生する Didymophyes の一新種に於

て恰もケリケルの γ 型の如き多くの幼蟲體

を觀察せり。而して其の衛星蟲のある者は

殆んど隔膜を消失せんとし、又ある者は已

多室性簇蟲に就く(秋山)

に之を消失せり。

2) Mit einem Rüssel, alle isolirt lebend (上室を有するもの、即ち有頭蟲)

Gregarina caudata v. Sieb. (今は *Schneideria*

caudata)

G. conica L. Duf. (?)

G. Heerii Köll. (今は *Pileocephalus heerii*)

G. oligacanthus v. Sieb. (今は *Hoplorhynchus oligacanthus*)

G. rubecula Hammers. (今は *Pyxinia rubecula*)

G. Sieboldi Köll. (Labbe は之をも *Hoplorhynchus oligacanthus* とせり)

G. brevirostra Köll. (今は *Phialoides ornata*?)

“Einfache” の “Lingeschwürte” とは夫れぐゝ今の *Monocystidea* の *Polycystidea* のに當れど全體の分類猶

極めて皮想蕪雜なり。然し乍ら之れ孢子蟲學に關する知識の幼稚なる上代に於ては又眞に已むを得ざりし處なり。

ケリケルは更に其の追記中に v. Siebold 及び Ecker より採られたる數個の種を附加せり。即ち左の如し。

1. *Gregarina scolopendrinae* Köll. (G. s. は *Scolopendra* の腸に寄生す。之に依つてラッペは疑問符を冠して之を其の *Pterocephalus nobilis* 中に記入したれど、これ果して *Pterocephalus* なるや否や頗る疑はじ。ケルケルの圖書及び記載によればこの簇蟲の前室は圓形にして、*Pterocephalus* に特有なる小角 (“cornicle”) も又叉狀部 (“lobes”) もなし。然し乍ら余は未だ曾て *Pterocephalus* の前室が斯の如き形狀をなせることを實見したることなし。)

2. *G. pellucida* Köll. (今は *Dolycystis pellucida*)
3. *G. clavellinae* Köll.
4. *G. phallusiae* Köll.
5. *G. balani* Köll. (?)
6. 及び エツケル に依つて *Nereis Beaucondrayi* の

腸中に見出されたる一種の簇蟲(?) (ケリケルは

こはシーボルトが若き Nereis に於て發見した

る Gregarina と同一のものならんとせり)

以上の中一、二、三、は多室性にして他は單室性の簇蟲なり。

上文に於て見らるゝが如くケリケルは總ての種を Gregarina なる一屬の下に置けり。

第三——デーシムバ (Diesing 1851) は簇蟲(彼は之を Protorhyngodea とせり)を以て蠕蟲と誤認し、鈎頭蟲 (Acanthocephala) と共に其の Aproceta 中に入れたる。Protorhyngodea は Gregarina の一屬を有す。

其の特質に曰へ、

“Proboscis haud labiata, uncinulata v. crenulata.

Nec tractus intestinalis, nec organa genitalia. Pro-pagationis modus incertus. —Animalum evertibrato-

rum praeprius insectorum endoparasita.”

デーシムバは上語を “Proboscis” と呼び、前室を Re-ceptaculum” と呼び、而して後室を “Corpus” と呼ぶ。

多室性簇蟲に就て(秋山)

斯の如き名稱を付したるは之れ即ち簇蟲を以て後生動物の蠕蟲と誤認したるが故なり。猶彼は主として有頭蟲或は無頭蟲の形態及び色彩にて分類をなし四十六種に分てり。之等の中には單室性若くは多室性の簇蟲雜然として混在す。

デーシングも亦ケリケルの如く多くの簇蟲を單に Gregarina なる一屬の下に集めたれど之れ固より當を得たる方法にあらず。

第四——アイメ、シュナイダー (Aimé Schneider 1875) は從來成蟲の外形に就て分類したるを排し、分類の基礎を其の胞子の形態に置き、一方又合接體形成の時期をも考量して簇蟲の分類を試んとせり。彼は又多室性簇蟲に左の如き諸屬を新たに増加せり。

1. Gamocystis

2. Dufouria (この屬名は已に、1830 年 Robineau-

Desvoidy に依つて双翅類の一屬に先用せられ

あればとて、ラッペは之を Légeria と改めた

り)

多室性簇蟲に就て(秋山)

一六

3. Bothriopsis.

4. Porospora (この属は Gymnospora の動搖と共に疑問の中に陥れり)

5. Stenocephalus (この属名は 1832 年 de Laporte に依つて有吻類中の半翅類の一属に先用されあればとラッペは之を Stenophora と改正せり)

6. Hyalospora

7. Pileocephalus.

8. Geniorhynchus (= Geniorhynchus)

9. Ichinocephalus (この属名は 1858 年 Molin に依つて線蟲類の一属に先用せられあればとラッペは之を Echinomera と改む)

10. Euspora

胞子の形狀に分類の基礎を置きたるシュナイダーの功は頗る顯著にして、没すべからざるなり。

第五——ガブリエル (Gabriel 1880) は隔膜の有無も、又、上室若くは接着器 (“Haft- und Bohraparat”) も分類上の價值なしとしてシュタインの分類法を却け、自ら、其

の發生現象に依つて左の如き分類をなせり。

1. Acystoplasta (胞子形成に先つて被囊することなきもの、Gregarina paradoxa (今の Stenophora julii) は之に屬すとす)

2. Cystoplasta (胞子形成に先つて被囊するもの、G. paradoxa 以外の簇蟲)

ガブリエルは又他の一方に於て彼の所謂變形菌體 (“Myxomycetenformen”) の現出と胞子形成との關係より簇蟲を三群に分けり。

1. Greg. Isoplasta (變形菌體と胞子と同時に生ずるもの)

2. Greg. Proteroplasta (變形菌體が胞子より先に生ずるもの)

3. Greg. Hysteroplasta (變形菌體が常に胞子より後に生ずるもの)

右の中第一と第二とは Cystoplasta に、第三は Acystoplasta なり。

ガブリエルの說に従へば簇蟲に單室性及多室性の別を

設けず。又如上の彼の分類は疑もなく正鵠を失したるものにして後來の學者の均しく採用せざる處なり。

第六——ビュッチリ (Bütschli 1862) はシュナイダーの分類法を用ひて胞子の形狀に重きを置き、猶成蟲及び被囊體の形狀、又胞子形成 (Sporulation) の完不完等を斟酌して分類を立てたり。

Gregarinida { 1. Monocystidea
2. Polycystidea

第一中には Monocystidae s. str. 従來 “Kugel-und eiförmige Psorospermien” と呼ばれたる Coccidiidae を入れ (ビュッチリは「コクシチデア」と「モノシスチデア」とは著しき類縁ある故一群中に入るべきなりとせり) 第二中には今も云ふ多室性簇蟲を含ませ、この中に下の十三屬を掲げたり。

1. Dufouria (= Légeria)
 2. Bothriopsis
 3. Porospora (?)
 4. Stenocephalus (= Stenophora)
- 多室性簇蟲に就て(秋山)

5. Hyalospora

6. Fuspora

7. Clepsidrina (= Gregarina)

8. Pileocephalus.

9. Echinocephalus (= Echinomera)

10. Stylothynechus.

11. Geniothynechus (= Geniothynechus)

12. Actinocephalus.

13. Pyxinia

ビュッチリはシュナイダーの Gamocystis をば單室性簇蟲の中に入れたり。Gamocystis は一時的の前室を有する奇異なる多室性簇蟲にして單室性簇蟲と見誤られ易きのなり。

猶彼は一八八二年シュナイダーに依つて發見せられたる多室性簇蟲の三新屬を其のナハトラーク中に附加せり。即ち

1. Lophorhynchus (この名は鵜飼類に先用あればとテラッペは之を Lophocephalus と改めたり)

多室性簇蟲に就て(秋山)

2. Trichorhynchus.

3. Cnemidospora.

之なり。

第七——レシター(Léger 1892)は其の胞子の裸出せる
と然らざるにより簇蟲を二大別して

I. Grégarines gymnosporées (Spores nues) (Gym-
nosporea なる一群の大動搖を蒙れることは後文
に明かなり)

II. Grégarines angiosporées (Spores téguementées)

とせり。前者は Gymnosporides なる一科を有し、此の
科は又 Porospora なる一屬を有す。後者は胞子の形狀
によつて下の九科に分る。

A、胞子の兩極同形のもの、多室性簇蟲は皆此の部に入
る

a、胞子正形にして棘なきもの

i. Clepsidrinides :

1. Clepsidrina (=Gregarina)

合接 2. Firmocystis nov. gen. (=Firmocystis)

す
者る
3. Hyalospora
4. Euspora
5. Gamocystis

6. Cnemidospora
7. Stenocephalus (=Stenophora)
8. Sphaerocystis nov. gen.

ii. Anthocéphalides (ラッベは之を Subfam. Anth-
orhynchinae として Actinocephalidae 中に

入れたる) :

1. Anthocephalus (この屬名は 1819 年 Lu-
dolphi に依つて條蟲類の一屬に先用せら
れあればとてラッベは之を Anthorhyn-
chus と改めたる)

iii. Dactylophorides :

1. Echinocephalus (=Echinomera)
2. Dactylophora nov. gen. (=Dactylophorus)
3. Pteroccephalus.
4. Trichorhynchus.

iv. Actinocephalides :

1. Actinocephalus.
2. Geneiorhynchus (=Geniorhynchus)
3. Dufouria (=Légeria)
4. Bothriopsis.
5. Coleophora (この名稱は穀蛾科 Tineidae の一屬に先用せられあればとラッベ之を Coleorhynchus と改めたり)
6. Phialis nov. gen. (此名稱は 1879 年 Haeckel によつて Leptomedusae の一屬に先用せられあればとラッベ之を Phialoides と變更せり)
7. Discocephalus nov. gen. (此名稱は滴蟲類に先用ありとラッベ之を Discorhynchus と改む)
8. Pyxinia.
9. Xiphorhynchus nov. gen. (鵜禽類の一屬に先用あり、ラッベ之を Beloides と改む)

多室性簇蟲に就て(秋山)

10. Schneideria nov. gen.

11. Monocystis du Lombric.

12. Pileocephalus.

13. Amphorella nov. gen. (Gastropoda に先用あり、ラッベ之を Amphoroides と改む)

14. Stephanophora nov. gen.

15. Asterophora nov. gen.

d' 孢子形状に似るもの

v. Acanthosporides :

{ 1. Corycella nov. gen.

{ 2. Syncestis

{ 3. Acanthospora nov. gen.

{ 4. Ancyrophora nov. gen.

5. Pogonites nov. gen. (攀木鳥類に先用あればとラッベ之を Cometoides と改む)

c' 孢子不正形なるもの

vi. Stylorhynchides :

1. Stylorhynchus.

2. Oocephalus.

3. Cystocephalus.

4. Sphaerocephalus (甲蟲に先用ありとてラッ

べ之を Sphaerorhynchus と改む)

5. Lophorhynchus (鰐鰐類に先用ありとて

ラッべ之を Lophocephalus と改む)

vii. Menosporides :

1. Menospora nov. gen.

2. Hoplorhynchus.

B、胞子の兩端同形ならざるもの、單室性簇蟲のみを含

ふ、

a、胞子簡單にして囊狀なり、

viii. Gonosporides.

b、胞子に一本若くは二本の尾狀附屬物あり

ix. Urosporides.

以上の中 Actinocephalides 中の Monocystis と Acan-

thosporides 中の Syncystis 及び最後の Gonosporides と

Urosporides とは單室性簇蟲なり。レジェーは主として胞

子の形狀に依つて分類をなしたれば特に單室性簇蟲及び多室性簇蟲の如き區別を立てざりしなり。

Nov. gen. 符を付したるはレジェーの新に發見設定したるものなり。又科名は總てレジェーの新設に係る。

レジェーの此の分類に依つて多室性簇蟲の分類は大略其の骨子を得たり。次に紹介せんとするラッベの分類も大部分は之に則れり。この點に關するレジェーの効亦決して觀過すべからず。(此章未完)

内外彙報

分類學

○沙嚙類の系統と分類

沙嚙類の系統につきては既にゼムベル、ルードウ、カッピ、ペリエー等諸大家の説あれど之と少からず異りたる意見のオエステルグレン氏近頃標題の如き論文を公にしたりいま左にその概略を紹介せん但し文中の括弧内は小生が